



日本記者クラブ会報

公益社団法人 日本記者クラブ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル TEL. 03-3503-2722 <http://www.jnpc.or.jp/>



安倍首相 真珠湾訪問

真珠湾攻撃の犠牲者の名前が刻まれたアリゾナ記念館の壁に向かい、黙とうする

安倍晋三首相とオバマ大統領=2016年12月27日 ハワイ・オアフ島

撮影：徳野 仁子(毎日新聞東京本社写真映像報道センター)

激変する世界

ファクトに基づく報道を

理事長 伊藤 芳明

新たな年が明けました。1月20日の就任式で、いよいよ米国のトランプ政権がスタートします。さらにフランス大統領選、ドイツ連邦議会選と節目の選挙が続きます。韓国の混乱もあって、日米同盟の行方ばかりでなく米国を中核としてきた国際秩序がどうなっていくか、われわれが全力を挙げて取り組む年となりそうです。

昨年は、英国の欧州連合(EU)離脱の国民投票(6月)、米大統領選(11月)と事前の世論調査結果が外れたことが話題となりました。調査手法など課題が浮き彫りになりましたが、それ以上に衝撃だったのは、メディアからのメッセージが国民にはほとんど届いていない事実を改めて突きつけられたことだと思います。

米大統領選では米国の主要100紙のうち、52紙が民主党のクリントン候補支持を表明し、共和党のトランプ候補を支持した新聞は2紙のみでした。トランプ氏の「ネイティブズム」(排外主義)的主張の危うさや、大統領としての資質への懸念などを多くの新聞が指摘し続けたにもかかわらず、米国民の選択に十分な影響を及ぼしたとはいえません。

(2ページに続く)

(1ページから続く)

その意味で2016年のトランプ勝利は、「新聞の敗北」が明らかになった転換点として、後の研究者から位置付けられるかもしれません。

さらにトランプ氏は大統領選の勝者が行う恒例の記者会見を開かず、代わりにツイッターを通じて自らの考えを一方的に発信し、環太平洋経済連携協定(TPP)への不参加に関連した動画もユーチューブに流し、メディアは本人に質問する機会もなく、その情報を転電せざるを得ませんでした。これからのトランプ政権とメディアとの信頼関係構築への不安を予感させます。

これはトランプという強烈な個性が生んだ特異な現象でしょうか？あるいは米国一極支配の下で進んだ



アウンサンスーチー・ミャンマー国家顧問兼外相の会見後に記念品を贈る伊藤理事長 (2016.11.4)

グローバルズムへの反動が、フランスの人口学者、エマニュエル・トッド氏の言う「グローバルズム疲れ」を生んだ反映でしょうか？ 全てを利益率で考えるのが主流になっている最近の日本でも、起こり得ないとは言いいられないように思えます。

安倍政権の政策について批判を展開しても支持率にはほとんど影響がない。閣僚のスキヤンダルを報じても素知らぬ顔で居座り続ける――。メディアが読者や視聴者から「エスタブリッシュメント(既成権力)」とみなされ、「味方ではない」と判定されているのではないかという不安や危機意識は、われわれ日本のメディアに携わる人間が、皮膚感覚として感じていることではないでしょうか。

公益財団法人新聞通信調査会の2016年の調査で、NHK、新聞、そして民放テレビは信頼できる情報源として依然、6割から7割近い支持を得ています。しかし、既存の政治家や政党に失望した人々は、既存メディアにも信を置いていないという米国での事実を、わがこととして謙虚に受け止めねばならない時期に来ていると思います。

この時にわれわれの頼るべき武器の1つは「ファクト」に基づく信頼



参院選9党党首討論会 (2016.6.21) (写真はいずれもガンマプレス提供)

できる情報です。一方的な主張に對抗するには、それを打ち破る事実を提示することです。ジャーナリズムの原点は事実の発掘であり、事実の前に謙虚であらねばなりません。

当事者に問いかける場 横断的な協力の場

その意味で、日本記者クラブの活動は貴重だと思っています。さまざまな分野のゲストを招き、その主張に耳を傾けると同時に、時には耳に痛い鋭い質問でゲストの本音を引き出す努力をする。ネット社会に見られる一方的な情報発信に對抗し、バ

ランスの取れた信頼するに足る情報を発信するには、地道だけれども当事者を招き、直接問いかける当クラブの日々の活動こそ有効だと信じています。

昨年1年間に主催した会見・行事は250件に達しました。6月に実施した参院選の党首討論会、7月の都知事選立候補予定者共同会見、11月のミャンマーのアウンサンスーチー国家顧問会見など注目を集めた回も少なくありません。ニュース性に富む多彩なゲストを招いてくる企画委員の皆さんの努力のたまものです。

さらに特筆すべきは、現役記者を対象にした記者ゼミ「次世代ジャーナリストの必須IT講座」を舞台に、社の壁を超えた横断的な記者間の協力態勢が、自発的に立ち上がったことです。自分が習得した知識を惜しげもなく開示する姿は、ライバルであると同時にジャーナリスト仲間であることを実感させてくれます。

われわれは今年もジャーナリズムの原点に立ち、信頼できる情報の発信基地、さらには記者が連帯する場としての存在を確固たるものにしていきます。

会員の皆さまのこれまで以上のご支援、ご助力をお願いいたします。

(毎日新聞社論説特別顧問)

「トランプ政権」新シリーズ開始 福島第一原発へ取材団を派遣

今年は、内外ともに先の見えない1年になりそうです。視野を広く、深く持ち、会見や会報を通じてニュースを発信していきます。

米新政権企画、初回は米大学教授

世界が注視する中、トランプ政権がいよいよ今月下旬からスタートします。当クラブでは、「トランプ政権・米」と世界の行方」と題して、新政権の内政、外交、経済などの諸政策からトランプ氏自身のパーソナリティーまで、広範囲にわたってトランプ政権を考える長期シリーズの研究会をスタートさせます。

初回(1・6)のゲストは、貿易政策が専門で、日本や東アジアの政策

や外交に詳しい米プリンストン大学のクリスティーナ・デビビス教授。同教授の著作『Why Adjudicate? Enforcing Trade Rules in the WTO』(2012年)は大平正芳記念賞を受賞しています。

1F構内取材、2月上旬を予定

当クラブでは、今年も東京電力福島第一原子力発電所(1F)へ取材団を派遣するため、準備を進めています。1Fへの取材団は、14年、16年に続き3回目になります。

現在、東電と最終的な詰め交渉が続けていますが、2月6日から9日までの間に、2班に分かれて1F構内に入る予定です。募集人数は2

班合わせて30〜40人で、1F以外の周辺取材も行い、各班は2泊3日の日程になります。毎回、募集人員を上回る希望者があるため、法人会員所属の現役記者を対象とします。ご了解ください。

日本記者クラブ賞候補の推薦を

今年も日本記者クラブ賞の候補者募集の季節がやってきました。

日本記者クラブ賞は、取材、報道、あるいは評論活動を通じてジャーナリストとして顕著な業績をあげた個人を顕彰するもので、当クラブの会員、もしくは法人会員に属することが受賞者の資格になっています。2016年度は、読売新聞東京本社の尾崎真理子さんが長年の文化部記者としての業績が評価され、受賞しています。

また同特別賞は、当クラブが公益

社団法人になったことをきっかけに12年度に創設された賞で、原則として非会員が対象です。ただグループでの取材や番組制作の場合は会員も対象になります。昨年はジャーナリストの堀川恵子さんが『原爆供養塔』などのノンフィクション作品を評価され、受賞しました。

締め切りは1月31日。推薦方法など詳細は事務局の本庄へお問い合わせください(電話03-3503-2754)。

クラブのラウンジ改善案を募集

昨年11月号の会報でお知らせしたとおり、今年4月から個人会員Dの会費を値下げします。この値下げを契機に入会キャンペーンを行います。新会員募集にあたり、日本プレスセンタービル9階の当クラブのラウンジをより使いやすいように改善したいと考えています。

ラウンジは、会員の皆さんの憩いの場であり、活動拠点でもあります。改善点については、ラウンジに「ご意見箱」を設置しました。またメール(jimukyoku@jnp.co.jp)でのご意見もお待ちしております。

ご協力、よろしく願います。

(専務理事 土生修一)

新春随想	4・5
メランコリーの行方 定型と個性の葛藤	梅津時比古
クラブゲスト	6・7
中尾武彦・アジア開発銀行総裁／スジャン・チノイ・インド大使／ポール・シェアードS&Pグローバル・エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼チーフ・エコノミスト／坂口正芳・警察庁長官／奥蘭秀樹・静岡県立大准教授／フレディ・スヴェイネ・デンマーク大使、ユッカ・シウコサリ・フィンランド大使、ハンネス・ヘイミソン・アイスランド大使、アーリン・リーメスタ・ノルウェー大使、マグヌス・ローバック・スウェーデン大使／大島賢三・元国連大使／辻哲夫・元厚労事務次官／横倉義武・日本医師会会長／石田勇治・東大大学院教授／世耕弘成・経済産業相兼ロシア経済分野協力担当／李燦雨・帝京大講師／四家千佳史・コマツ執行役員・スマートコンストラクション推進本部長	
会見レポート	8・9
奥蘭秀樹氏／北欧5カ国駐日大使／石田勇治氏／世耕弘成氏	
沖縄与那国・石垣取材団報告	10
記者ゼミ	11
次世代ジャーナリストの必須IT講座	
ワーキングプレス	12・13
日露首脳会談 「プーチンが来た！」長門市の長い1日	テレビ山口 森下敦司 横浜いじめ問題 黒塗り資料と“伝えたい思い”のはざま
新・列島報告	岐県飛騨市 14
映画館のないまち 「君の名は。」聖地巡礼に沸く	中日新聞社 浜崎陽介
被災地通信	福島県いわき市 15
震災の記憶よぎったM7.4 教訓と慣れから見えたもの	福島民友新聞社 渡辺哲也
リレーエッセー	16
夜回りは記者の道場 座談の名手だった松野頼三さん	井芹浩文
マイBOOKマイPR	17
会員掲示板	18
事務局から	19
写真回廊	20

メラニコリーの行方 定型と個性の葛藤

梅津時比古

(毎日新聞社客員特別編集委員)

ドイツ・ルネサンス期のルカス・クラナハ(1472〜1553)は、極めて現代的な生産体制をとった画家である。

バイエルン州の出身、ウィーンで修行し、ザクセン選帝侯に招かれてヴィッテンベルクに大きな工房を構えた。宗教画に裸体を大胆にとり入れる革新的な手法で注目を浴び、多くの肖像画や裸体画を描いて、名声を博した。

私たちが教科書等でよく目にしている宗教改革の創始者、マルティン・ルターの肖像画もクラナハの作である。

その作画法が独特である。クラナハの工房は親方と徒弟から成る中世以来の組織とは異なり、ポーズを描く専門家、表情描写を得意とする者、衣装あるいは装飾品に通じた描き手などを集

め、分業によって作品を仕上げる組織であった。クラナハの印を付けて世に送り出す一種のブランドである。

制作の素早さが当時としては驚異的であり、称賛の言葉が多く残っている。社会に、迅速という要素を持ち込んだことは注目されよう。

「クラナハ展」500年後の誘惑(1月15日まで国立西洋美術館)に集められた裸体画や肖像画を追っていると、作品として随所に見られるパターン化に気づく。

同じ構図の多くの作品は、画題名を入れ替えても気がつかないのではないかと思われほどである。事実、現代になって、クラナハ風の裸体画を縦、横にずらりと並べたパロディ画も制作されており、それも展示されていた(レイラ・パズーキ「ルカス・クラナハ《正義の寓意》15

37年による絵画コンペティション」2011年)。

伝達と表現 変容の歴史

パターンは早さをもたらすだけではなく、定型表現によって主題が明確に伝えられる。

女性がはだけた自らの胸に短刀をあてがっていたら、何度も描かれた定型として、それは夫の留守中に手箆めにされて自害したルクレティアが主題と、すぐに分かる。

しかしクラナハは、作品の中にその絵の固有の個性をも描き加けたであろう。

今回の展覧会では、ルクレティアに材をとった絵が3枚展示されており、いずれも刃を胸に当てている。3枚のうちではいちばん後に描かれた1532年のものは衣装を全て取り去った立ち姿で、この絵はほかの

ものと訴える力が微妙に違う。絵の中ではごく小さな部分だが、ルクレティアの少し寄せられた眉の下、灰青色の2つの目が、彼女の悲劇を表している。瞳の中心が、透きとおってゆく苦しみに見える。

クラナハはここを描き加けたのであろう。定型と個性の葛藤が見られて、興味深い。それが優れて現代の問題に通ずるからである。

新聞は情報の伝達としての役割から見られることが多いが、言語の視点に立てば、「言葉」を生産する巨大な工房の様相を呈している。各新聞の名の下に日々、これほど大量の言葉を生産し続けている組織体はないであろう。

そこに、クラナハの工房に見られた定型と個性の問題がそのまま当てはまる。

新聞における表現としての言葉を明治時代からたどると、まさに定型と個性の葛藤がうねりながら変容してきた流れが見える。

文語表現に近い当初の記事には定型がひしめいている。

文語自体が定型を歴史的に確立した文章なので、定型・様式に当



うめつ・ときひこ▼1948年神奈川県出身 71年毎日新聞入社 社会部 学芸部 同専門編集委員などを経て2013年から桐朋学園大学学長に就任とともに現職 2004年著書『セロ弾きのゴーシュ』の音楽論で第54回芸術選奨文部科学大臣賞および第19回岩手日報文学賞賢治賞 10年「音楽評論に新しい世界を開いた」として日本記者クラブ賞 著書に『神が書いた曲』『フェルメールの楽器』『冬の旅 24の象徴の森へ』『ゴーシュ』という名前など多数

てはめることによって伝達と表現がたやすく一致する。伝える内容をはっきりと表現しながら冗漫に陥らない。

たとえば、「天気晴朗ナレドモ波高シ」は定型中の定型であるが、リズムといいイメージの幅の広さといい、格調が自然に備わっている。しかし定型も過ぎると、空疎な美文になりがちである。

おそらく新聞の文体が口語体に

近い現代文になってから、定型と個性の葛藤が苦衷の度を強めたのである。詩人が悩んだ問題を、新聞も同じくしたのである。

「君は花のように美しい」と言い寄っても、ロマン派の時代ならいざ知らず、現代ではそのようなありふれたパターンの言葉に心動かされる女性はいないに違いない。しかし、なんと少しでも個性的な固有の表現をと試みた結果、ロートレアモンのように「手術台の上でこうもり傘とミシンが出会ったように美しい」と言葉を紡げば、今度は意味不明になりかねない。通り魔の現場を見た人を取材して

「怖かった」と唇を震わせた

と書けば、ありきたりだが意味、状況は直ちに伝わる。それを

「怖かった」と厚めの唇を中央に寄せてやつのようにゆがめた

と書けば、表現に留意して個性的であるかもしれないが、迅速な意味伝達に欠け、まだるっこい。

■言葉の工房としての新聞

新聞は組織内で言語表現を自己訓練

し探求している工房である。たとえば記者は「成り行きが注目されている」と締めくくる「なりちゅう原稿」はやめるように指導される。しかし、「なりちゅう」は状況を短くまとめるのにまことに便利である。定型は記号化しているからである。簡明に意味が伝わる。それだけに安易に使われやすい。

たとえば演奏家の評価は極めて難しい領域のせい、とりあえず「世界的演奏家」と書かれることが多い。しかしそれは多くの演奏家の心密かな失笑を呼んでもいい。つまりは、言葉は言葉の使われ方だけの問題ではなく、内容の把握の如何をも如実に表すのである。

新聞は、一般的に伝わりやすい定型と独自の味を持つ個性との葛藤を、表現の歴史において繰り広げてきた。毎日新聞が積極的に踏み込んだ記者の署名原稿もまさにそのひとつの答えであろう。署名によって、筆者が誰にでも入れ替わるパターン化から、個性ある文体への導線を引いたのである。

クラナハは「メランコリー」と題した絵をしばしば描いている。今回、展示してあった1枚は、赤ん坊がたくさん（数えると15人）踊った

り寝たりしている姿に目を奪われる。動きは異なるが、赤ん坊は本能的には同じパターンで描かれている。横に若い女性が膝を立てて座り、伏し目がちにうつろな表情で、赤ん坊を意識はしているが見てはいない。暗い背景には悪魔らしき姿も見える。この女性がメランコリーを抱えているのである。

見ているうちに、女性はまさにクラナハ自身の憂鬱を体現しており、赤ん坊たちはパターン化した彼の作品のように思えてきた。定型化した作品が売れば売れるほど、クラナハにメランコリーが巣くったのではないだろうか。

現代のメディアが抱える定型と個性の葛藤の問題を、500年前にクラナハの工房は共有していたに違いない。

少なくとも同種のメランコリーは、現代の言語表現の工房としての新聞の内部にも、常に巣くっているように思われる。

メランコリーの成り行きが注目されている。あらら？

北欧のいま 5カ国駐日大使に聞く

フレディ・スヴェイネ デンマーク大使

「世界一幸せな国の女性の役割」

ユッカ・シウコサーリ フィンランド大使

「北欧協力と教育」

ハンネス・ヘイミソン アイスランド大使

「成功物語：エネルギー・インフラの2国間協力」

アーリン・リーメスタ ノルウェー大使

「テクノロジーとイノベーション」

マグヌス・ローバック スウェーデン大使

「250年の歴史をもつ報道の自由」

5人の大使が一堂に会しての会見は当クラブ史上初めて。各大使自らが設定したテーマについてスピーチした後、難民問題、英国のEU離脱、対口関係、トランプ時代の安全保障など広範囲にわたる質問に答えた。同席した他の大使への配慮と自国PRの配分が絶妙で、北欧5カ国の強い連帯と自国へのプライドが同時に伝わってきた。ジョークを交えた当意即妙の回答ぶりも印象的で、各大使の知性とユーモアが光った会見となった。

■ 12・7(水) 記者会見／司会：西村陽一企画委員長／通訳：池田薫、宇尾真理子／出席：80人
8ページに会見レポート

おおしま けんぞう
大島 賢三 元国連大使



日本の国連加盟60周年に合わせたシリーズの最終回。日本のプレゼンスをどう高めるか。「いいポジションをとることだ。例えば人道担当事務次長を英国から取り返す。安保理やPKOと関係する仕事ができる」。事務次長と国連大使の2つの経験から提言した。

■ 12・6(火) シリーズ企画「国連と日本人」⑩／司会：土生修一専務理事／出席：30人

つじ ともお
辻 哲夫 元厚労事務次官



「団塊の世代」が後期高齢者となる2025年問題解決には「高齢で弱っても安心できる在宅ケア政策の徹底しかない」。「在宅医療がゼいたくなのはシステムがないから。10年以内にシステムを作れるかどうか勝負」。柏市の事例を挙げ地域包括ケアの必要性を訴えた。

■ 12・8(木) 記者会見／司会：梶本章委員／出席：53人

よこくら よしたけ
横倉 義武 日本医師会会長



今年10月に世界医師会長就任が内定している。日本人で3人目。「日本医師会の政策実現能力は国際的に評価されている。アフリカの公衆衛生への貢献や国境なき医師団との協力などもやりたい」。長年取り組んでいる「かかりつけ医」普及の重要性も訴えた。

■ 12・9(金) 昼食会／司会：傍示文昭委員／出席：31人

なか お たけひこ
中尾 武彦 アジア開発銀行(ADB)総裁



昨年11月、総裁に再任された。「アジア経済には長期的停滞論は当てはまらない」と前向きな評価。また「TPPがたとえ実現しなくても、アジア全体ではASEANなどで貿易の自由化が進んでおり、決定的なダメージにはならない」との見方を示した。

■ 2016・12・1(木) 記者会見／司会：実哲也委員／出席：61人

スジャン・チノイ 駐日インド大使



日印原子力協定に署名した直後の会見。「インドは核軍縮と核不拡散を守ってきた歴史がある」とまずは公式論。その上で「農村の余剰人口の働き口を工業化で用意する。パリ協定を守るには再生可能エネルギーを増やす」。だから原発が要る、という必要論をどう聞く。

■ 12・1(木) 記者会見／司会：坂東賢治委員／通訳：池田薫／出席：50人

ポール・シェアード
S&Pグローバル エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼
チーフ・エコノミスト



米国EU日本中国と世界を一周し経済への懸念を巧みな日本語で解説。「トランプ氏の財政出動はクルーグマン氏ら民主党系の政策と似ている」。日本については「潜在成長率2%をめざすなら移民を真剣に考えなければならない」と労働人口を増やす必要を説いた。

■ 12・2(金) 記者会見／司会：実哲也委員／出席：45人

さかくち まさよし
坂口 正芳 警察庁長官



昨年8月に就任。録音録画による取り調べ、通信傍受などの新制度から暴力団対策まで広範囲に現状を語った。相模原事件での被害者の匿名発表には「報道の社会的役割は理解している。匿名の場合は、その必要性を報道機関に説明することが重要」と述べた。

■ 12・5(月) 昼食会／司会：瀬口晴義委員／出席：54人

おくその ひでき
奥園 秀樹 静岡県立大学准教授



記者出身の韓国政治研究者。「不動の保守層が存在し、野党の団結にも不安がある。朴槿恵大統領は任期満了は諦めたが、保守再編で中道保守政権に引き継ぐことを狙っているのでは」「憲法裁判所は国民の信頼が厚いだけに世論に押され早く結論を出すかも」

■ 12・5(月) 研究会「朴槿恵大統領が辞意一大揺れの韓国社会」／司会：山本勇二委員／出席：74人
8ページに会見レポート

李 燦雨 帝京大学講師



謎だらけの北朝鮮経済を猛スピードで解説した。圧巻は食糧配分のチャート。農民800万人に現物配布され、都市労働者1100万人と軍人・公務員・教員ら600万人に国家がどう分配するか。「600万トンの生産だと輸入なしで解決できる。食糧危機はない」と読む。

■ 12・15(木) シリーズ企画「北朝鮮の核とミサイル」④／司会：山本勇二委員／出席：52人

石田 勇治 東京大学大学院教授



30歳まで無名だったヒトラーがなぜ短期間で独裁政権を樹立できたかを最新資料も使い解説した。「ドイツをベルサイユ条約の軛(くびき)から解放した外交成果でカリスマを獲得」。人気の源泉はよく響く声にもあった、との意外な指摘も。「石田白熱教室」は動画で。

■ 12・9(金) 記者会見「ヒトラーとは何者だったのか」／司会：倉重篤郎委員／出席：78人
9ページに会見レポート

四家 千佳史

コマツ執行役員・スマートコンストラクション推進本部長



ドローンを用いて建設現場の3次元測量データを作成し、効率的な工事を可能にする新モデルの責任者。「人手不足に役立つ。建設業は地方と関係が深いので地方創生にもなる。このサービスはパッケージ化すれば輸出も可能。成長のチャンスがある」

■ 12・16(金) シリーズ企画「チェンジ・メーカーズに聞く」③／司会：水野裕司委員／出席：33人

世耕 弘成 経済産業相兼ロシア経済分野協力担当相



日露首脳会談を前に、身近で見聞きした首脳同士の生々しいやり取りや所管の日露経済協力について語った。「プーチン大統領は日本との経済事業に大きな関心がある」。「食い逃げ」批判には「与えるだけの事業はなく、全てビジネススペース」と反論した。

■ 12・12(月) 記者会見／司会：川上高志委員／出席：120人
9ページに会見レポート

会見余話

● 北欧5カ国大使会見の舞台裏

クラブ初となる北欧5カ国駐日大使による共同会見のきっかけは、ローバック・スウェーデン大使からの提案だった。記者経験もある同大使からは、「2016年はわが国で『報道の自由』の法律成立から250周年なので、日本の記者の皆さんに話したい」との要望が寄せられた。

北欧は、社会保障、教育、男女平等などの先進国として、また最近では、難民流入、対露関係、ポピュリズム政党台頭などの共通課題も抱えている。そこで、スウェーデンだけでなく北欧5大使そろい踏み会見に拡大することにした。ローバック大使も快諾され、自らの大使への根回し役も引き受けてくれた。

会見後のレセプション(写真)には、フィンランドのクリスマス菓子「ヨウルトルトゥウ」をはじめ各国大使館から自慢のお菓子、チーズ、ホットワインなど100人分が提供され、北欧談義を大いに盛り上げた。

2匹目のドジョウというわけではないが、次は対露関係に苦慮するバルト3国の駐日大使が候補か？

(石川洋)

● 「国連と日本人」シリーズが完結

日本人国連職員ら15人が思い語る

日本の国連加盟60周年にあたる昨年、日本人の国連職員を中心に左記の計15人のゲストを招いたシリーズ「国連と日本人」が完結した。多国間組織の難しさと人道援助の現場での奮闘ぶりが印象的だった。

日本人職員はまだまだ少ない。「世界を相手する仕事は楽しく、やりがいがある。来たら、日本人!」。動画から職員たちの呼びかけが聞こえてくる。

▽野田章子・モルディブ国連常駐調整官兼国連開発計画(UNDP)常駐代表(1・8)
▽大崎敬子・国連本部経済社会局統計部次長(2・10)▽北岡伸一・JICA理事長(2・24)▽忍足謙朗・元国連WFPアジア地域局長(3・3)▽小野舞純・国連事務総長室シニア・オフィサー(3・24)▽黒柳徹子・ユニセフ親善大使(3・24)▽松岡由季・国連国際防災戦略事務局(UNISDR)駐日事務所代表(4・22)▽武内和彦・国連大学上級副学長(6・2)▽平原弘子・国連南スーダンミッション・ベンティウ事務所長(6・16)▽山下真理・国連平和構築支援事務所次長(7・28)▽黒田順子・米マリーシア大学客員教授(8・2)▽根本かおる・国連広報センター所長(9・23)▽植木安弘・上智大学教授(10・3)▽川端清隆・福岡女学院大学教授(11・18)▽大島賢三・元国連大使(12・6)
*いずれもユニチューブの日本記者クラブチャンネルで会見動画を見ることができる。

奥蘭

秀樹

静岡県立大学准教授

韓国大統領弾劾
国民の怒り、どこへ

韓国が大揺れに揺れている。朴槿^{パク・クネ}大統領に對する退陣要求集会は拡大の一端をたどり、国会では弾劾訴追案が可決された。国民の怒りはどこへ向かうのか。1987年の民主化以降、最大となった混乱の背景や今後の見通しなどを記者出身の研究者らしく、わかりやすく解き明かしてみせた。

会見は弾劾可決前の昨年12月5日に行われた。

日本の読者や視聴者が最も知りたいの「韓国民は何をそんなに怒っているのか？」という点だろう。それは朴槿恵氏に「だまされた」裏切られた」という国民の深い失望だとし、4つの点から分析した。

まず、自分たちの選んだ大統領が「得体の知れない人物」に操られていたという衝撃。次に「信頼」「約束」を強調していた「特別な存在」の女性政治家に「だまされた」という衝撃。さらに、父の朴正熙^{パク・チシ}元大統領の支持層からは「この国に泥を塗りやがって」「許せん」という怒り。そして「民主化から30年たっても、この

程度の政治か」「恥ずかしい」という思い、なのだという。

今後の焦点は憲法裁判所の審理と特別検察官の捜査の行方だが、韓国の司法は「独裁政権下で権力の道具となってきた反省から、国民の側に立たねばならない」という意識が強い。特にその傾向が強い憲法裁判は「国民世論に押される形で」弾劾可決後180日間以内とされている審査期間よりも早く審理を終えて「結論を出す可能性は十分ある」との見方を示した。

今回の事態が政界再編につながるという指摘は重要だ。弾劾訴追案には与党セヌリ党の半数が賛成したとみられるが、与党の非主流派と野党などが大統領選に向けて合従連衡するのではないかと予測した。そして、実際に激しい動きが始まった。

今後の政局を占うカギの1つは、今回、国民の行動によって示された「反既成政治」という意識の高まりだろう。米国や欧州に広がる「反既成政治」という世界的潮流に韓国も巻き込まれていくのか。「民意」はまたも政治を動かすのか。やむ気配のない抗議行動はそのことを暗示しているのかもしれない。韓国の行方は、なお予断を許さない。

共同通信社国際局 阪堂 博之

北欧5カ国駐日大使に聞く

共通課題と各国の事情を理解

同じ地域の国々の駐日大使が集まり、それぞれの事情と共通の課題について語る―日本記者クラブの新たな試みである「北欧5カ国大使会見」は、欧州の現状理解に役立つ話が多く、各国大使がユーモアと機知も競い合う興味深い会見であった。

冒頭の各大使のプレゼンテーションが、それぞれ中心となるテーマを定めていて、総花的なお国の紹介ではなかったのが良い。デンマークはジェンダー間の平等と女性の役割を重視する社会の歩み、フィンランドは教員の裁量が大きい教育制度の効



左からスウェーデン、ノルウェー、アイスランド、フィンランド、デンマークの各大使

果、アイスランドは島国の特性と再生可能エネルギー、ノルウェーは産油国が水素利用でめ

は各国の社会の変化と今後の目標をうまく伝えていた。

日本でも、北欧が女性の社会進出が進んだ地域であることは知られている。それでも、上場企業の役員の4割という枠を定めたノルウェーと、能力次第にして枠を設けなくても女性管理職の比率が高まったデンマークの違いなど、あらためて認識できた話も少なくない。

外交・安全保障では、ロシアとの距離感や、トランプ氏が次期大統領になる米国と欧州の関係が焦点になった。北大西洋条約機構(NATO)に加盟していないフィンランドやスウェーデンで、将来の選択肢としてNATO加盟の議論が活発になっていること。各国とも国防予算を増やす傾向にある半面で、ロシアとの協力関係も注意深く保とうとしていること。日本のメディアの記者が常駐していない国々の現在の機微がよくわかった。

難民受け入れの現状や、排外主義的なポピュリズム政党の台頭などについての質問も活発だった。会見後のレセプションに多くの人が集い、各国の大使や大使館員を囲んで熱心に意見交換していたのも印象的だ。

企画委員 日本経済新聞社コラムニスト

脇 祐三

石田 勇治

東京大学大学院教授

「アドルフに告ぐ 甦るな！」

よみがえ

人権と民主主義を蹂躪した希代の独裁者。こんなアドルフ・ヒトラーに振られた歴史の役回りが近年、いびつに様変わりしている。

その巧みな演説と、様式美に偏した演出法が若者らにウケている。ユダヤ人大虐殺の事実は棚上げされ、「偉大なカリスマ性」ばかりに目が行く。ウソと謀略に満ちたヒトラーとナチ党（国民社会主義ドイツ労働者党）の口は、今や政治の常套手段でもある。

格差とテロ、宗教対立、金融資本の跋扈、経済危機、大量難民、極右台頭。世界に波乱をもたらすさまざまな因子が、その「復権」を後押ししている。

それにしても、民主的な独ワイマール憲法下でなぜ「巨悪アドルフ」が生まれ、肥大化したのか。第二次大戦後の世界がこの問題に正面から向き合い、克服しなかったのはなぜか。独裁者の実像に迫る冷戦後の新資料を踏まえ、石田教授は改めて問

いかける。
どこか似た光景が目にある。例えば、当時の大統領緊急令。その

乱発により、強大な権力がやすやすと1人の手に握られた。現代版が自民党の憲法草案（緊急事態条項）ではないのか。

あるいは独裁の総仕上げとなる全権委任（授權）法。ナチ党はわずか1日の審議で仕上げていく。数を頼み、短時日に法の成立を図る、わが国会の姿が重なる。

憲法改正に向けた動きが加速する政治の今を語るとき、教授から危機意識がほとばしる。

世界を見渡せば、極右や強権的なリーダーたちが先進国を闊歩する。マスメディアが早々と白旗を掲げ、異論が一掃されるなら、そこに巨悪が生まれてもおかしくはない。

この不穏な流れにどう抗したらいいのか。教授は、自立的な市民の勇氣に期待するのだが、ことはいささか複雑だ。

かつてのドイツ国民がそうであったように、どんな人であろうと、はびこる「陳腐な悪」（H・アーレント）からは免れ難い。しかも、膨大なネット情報の海に漂う現代では、善悪の判断さえ揺らぎがちだ。

巨悪アドルフの再来阻止は、市民それぞれの「内なる悪」との闘いから始まる。

朝日新聞出身 田上 幹夫

世耕 弘成

経済産業相兼ロシア経済分野協力担当

「ウイン・ウイン」

ウクライナ南部クリミア半島を強制的に編入したロシアは、欧米の経済制裁の対象だ。日本も制裁を課している。解除の見通しは立たない。それでも安倍晋三首相はロシアとの



経済関係拡大を目指し、対ロシア経済協力担当相を新設し、世耕弘成経済産業相に兼任させた。北方領土問題を自らの

手で進展させる意欲の表れだった。世耕氏は、制裁を課しつつ経済関係を強化するという、複雑な役回り。座右の銘「随所作主」について、与えられた場所で全力を尽くすことだと解説し（N.T.T.の）サラリーマン時代から、ポストを選んだことはない」と胸を張った。

会見は昨年12月12日。冒頭の30分間、日露関係をいかに経済で好転させるか熱弁を振るい、よどみがなか

った。プーチン露大統領の訪日を3日後に控え、北方領土の進展に暗雲が立ち込めていたが、この人が語ると展望が開ける錯覚が生まれるのは人柄のなせる技か。

官邸で各省庁の取りまとめ役となり、経済協力「8項目提案」を練り上げた。首相が自らこの提案を大統領に説明するための資料も作成。図入りの出来栄えに関心した大統領から、直接ほめられたエピソードも紹介した。

経済協力だけ先行して領土問題が置き去りになる「食い逃げ論」には語気を強めて反論した。「そのような批判は不当だ。全てビジネスベース。将来になって収益が戻ってくる。経済協力は日本にもメリットがある。ウイン・ウインの関係だ」と力説した。

ロシアとの関係は2005年の初訪問から。「議員交流で議事堂を訪れたら、昼からウオッカで乾杯。意外に几帳面で、日本人と一緒に仕事したいという意欲を感じた」と言う。北方領土の共同経済活動については「われわれがまとめたプロジェクトには、現段階で含まれていない」と慎重に言葉を選んだ。

共同通信社編集委員兼論説委員

松島 芳彦



石垣海上保安部を視察 「尖閣専従班」は最新鋭の1500トン級巡視船10隻が新たに加わり12隻体制となった(12・1)＝筆者撮影

羽田空港から石垣空港まで直通便で約3時間半。鹿児島県の上空がほ

沖縄与那国・石垣取材団(2016.11.30～12.3)

自衛隊配備で揺れる島 「民意」はどこに

日本記者クラブの沖縄与那国・石垣取材団は2016年11月末から12月初旬、中国の海洋進出と自衛隊の配備問題で揺れる両島を訪れた。

石垣市は基地受け入れの賛成派と反対派の対立が続き、国の安全保障上の必要性和地元理解をどう両立させるかが難しい政治課題となっていた。

日本列島の長さの中間点にあたり、

政府は尖閣諸島(沖縄県石垣市)の近海に中国船が頻繁に現れるなど東シナ海の緊張を受けて、南西諸島の防衛に力を入れている。石垣島には陸上自衛隊のミサイル部隊を新たに配備したい考えだ。

尖閣警備では16年春に海上保安庁が「尖閣専従班」を発足させ、1500トン級巡視船10隻を新たに追加して合計12隻の体制になった。石垣海上保安部の宮崎一巳部長に説明を受け、石垣港にずらりと並ぶ最新鋭の巡視船を見学した。

石垣市の中山義隆市長は海保の体制強化を評価し、取材団に「南西諸島への自衛隊配備は国が専権事項として判断すべきだ。いま南沙諸島で起きているようなことが尖閣でも起きる可能性がある」と語った。陸自の受け入れ賛成派は「中国への抑止力になり大規模災害時も自衛隊がいれば安心だ」と主張している。

取材団は自衛隊配備に反対する市民団体や基地予定地の近隣住民から



中山石垣市長



外間与那国町長



陸自与那国駐屯地は建物に琉球瓦を配し、沿岸監視隊がレーダーで警戒にあたる(12・2)＝筆者撮影

も話を聞いた。「中国との緊張をむしろ高める」「基地があると標的にされる」「観光の島に自衛隊はいてほしくない」。このままでは基地の島になるといふ訴えは切実で、住民投票の実施を求める声もあった。

日本最西端の与那国島では16年春にできた陸自の沿岸監視隊の駐屯地を取材し、塩満大吾司令(沿岸監視隊長)から施設や隊員の生活について聞いた。誘致運動をした与那国町の外間守吉町長は記者団に「人口1500人の町に隊員160人と家族100人が加わって、経済が活性化した」と成果を強調した。

一方で反対運動が続けた田里千代基町議は「中国を敵だと思っていない。やってはいけない自衛隊誘致に

手をつけて島を分断し、将来が見えなくなった」と嘆いた。

東シナ海での緊張にいかにも備えつつ、島の将来をどう描くか。防衛力の強化は地域の安定に本当にプラスなのか。重い問いかけは日本全体で答えを出すべき課題でもある。

日本経済新聞社編集委員兼論説委員

坂本 英二

●日程(3泊4日)

▼2016年11月30日(水)▽羽田発、石垣島へ▽具志堅用治・八重山漁協船主协会会长▽柳澤協二氏講演参加(主催・石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会)▼12月1日(木)▽上原秀政・石垣島への自衛隊配備を止める住民の会共同代表▽伊良部幸吉・八重山漁協代表理事専務▽石垣海上保安部視察、宮崎一巳・保安部長▽中山義隆・石垣市長▽慶田城用武・尖閣列島戦時遭難者遺族会会長▽砥板芳行・石垣市議▽懇談会・新垣玲央・沖縄タイムス、謝花史哲・琉球新報両八重山支局長▼2日(金)▽与那国島へ移動▽塩満大吾・陸自与那国駐屯地司令、施設見学▽外間守吉・与那国町長▽田里千代基・与那国町議▽石垣島へ戻る▼3日(土)▽バンナ岳展望台▽陸自配備予定地の平得大俣地区付近の嵩田、開南、於茂登、川原の4公民館館長と懇談▽石垣島発、羽田着、解散

【参加・8社15人】



地図上で始点と結節点をプロットし、右クリックして点と点を結びとコースができる。思ったより

かなり時間がかかってしまった。もたもたしているうちに、容赦なく次の事例に進行。東京マラソンの新コースを5キロごとにプロットする課題を与えられた。実際のコースが示されたテキストを参考に、画面の

ンベ爆発事件の犯行現場5カ所のプロット(地図上に点を打つ)を試みた。ソフトのメニューには数多くのボタンがあり、思い通りに地図を表示することがなかなか難しい。世界地図から札幌地域を抽出するのに、かなりの時間がかかってしまった。

デジタル化入門 オンライン地図を作る

2016・11・15(火)講師：山本智・NHK報道局ネット報道部チーフプロデューサー／出席：14人+ネット視聴4人

第11回のお題は「独自のオンライン地図を作る」。普段、インターネットで何気なく見ている地図だが、自分で作るの

簡単だ。講師から「後で修正できるから最初から厳密にプロットする必要はないよ」と言われ、気が楽になった。最終的に終点と始点を合致させる「スナッピング」と言われる作業が必要。これができるコースが完成するが、操作方法が難しい。ネット上に地図があふれているのに、何のためにこんなに苦労して自分で作る必要があるのだろう。その疑問に講師から解説があった。

まずは2014年に起きた札幌連続ボット(地図上に点を打つ)を試みた。ソフトのメニューには数多くのボタンがあり、思い通りに地図を表示することがなかなか難しい。世界地図から札幌地域を抽出するのに、かなりの時間がかかってしまった。

講義はその後、ポリゴン(面)データを活用して14年の関東豪雨の浸水地域をプロットした。必ずしも自分で地図を作成できなくても、「こんなことができるはずだ」という引き出しをもっておくとよい」と言う。QGISのマスターへの道のりは遠いが、講師の言葉に少し勇気づけられた。

日本経済新聞社企業報道部

鈴木健二朗

JavaScript入門とD3.js

腹をくくるかどうか決める

12・6(火)講師：松波功・中日新聞電子編集部／出席：18人+ネット視聴5人

2016年最後の記者ゼミのテーマは「D3.js入門」。米スタンフォード大学の研究者、マイク・ボストック氏が開発したデータ可視化のためのJavaScriptライブラリである。SVGと呼ばれる図形を表示する技術を操作することで、美しいデザインのグラフや地図を自由に作る

2016年最後の記者ゼミのテーマは「D3.js入門」。米スタンフォード大学の研究者、マイク・ボストック氏が開発したデータ可視化のためのJavaScriptライブラリである。SVGと呼ばれる図形を表示する技術を操作することで、美しいデザインのグラフや地図を自由に作る

最初に紹介されたのは、これまでのゼミ講義で学んだ熊本地震や大リーグのデータを可視化した作品だった。膨大な量のデータをわかりやすく、インタラクティブに操作できるこれらの作品を、講師の中日新聞の松波氏は3時間程度で作り上げたという。

講義はHTML、CSSの復習から始まり、JavaScriptの基礎、そして、実際にD3を使って簡単な棒グラフを作成するまでを駆け足で体験した。

「無理……」講義を終えた直後の正直な感想である。グラフはできたものの、用意されたコードを写したただ

「2時間ちよつとで、D3がマスターできるわけがない。きょうの講義は、腹をくくってやるかどうか決めるためのものです」。松波氏は講義の中で、こう述べた。

確かにできるわけがない。ただ、冒頭、見せられた「3時間」で制作したというグラフを見たとき、もはや、こうした技術を見たと、ニュースを伝えることはできないと感じた。できるかどうかは別に、腹はくくらなければならぬと思う。

NHKネット報道部チーフプロデューサー

山本智



日露首脳会談

森下 敦司(テレビ山口)

「プーチンが来た！」
長門市の長い1日

本当に来るのだろうか。

そんな思いが消えないまま、つい
にその日を迎えることになった。

果たしてその人は…来た。しかも
予定より大幅に遅れて。

1895年、関門海峡を望む下関
市の料亭「春帆楼」に、時の首相で
山口県出身の伊藤博文と清国全權大
使・李鴻章らが向き合っていた。日
清戦争後の「下関講和条約」が交わ
された。

それから120年余り。山口県が
再び外交の大舞台となった。

迎えるのはウラジミール・プーチ
ン・ロシア大統領である。超大物の
来訪に山陰の小都市、長門市は色め
き立った。

121年ぶりの外交の舞台

2016年12月15日。

安倍首相の地元、長門市にとつて
もテレビ山口報道部にとつても、長
い1日が始まった。見事な満月だっ
た前夜と打って変わって、小雨がそ

ほ降る寒い朝となった。

首脳会談の舞台は山あいの湯本温
泉の老舗旅館「大谷山荘」。早くか
ら会談場所と目されていたものの、
情報は直前まで伏せられた。

山口市にあるテレビ山口本社から
は車で1時間強。早朝に本社を出発
した取材班から連絡が入る。「道路
がものすごい渋滞で、予定の時間
に湯本温泉にたどり着けそうもない」
不安がよぎった。

天候も悪化した。湯本温泉にはひ
ょうも降った。取材ヘリは飛び立つ



オンエアに向けて報道部は大忙し(2016年12月15日/テレビ山口提供)

ことができるだろうか。

さらに波乱もあった。プーチン大
統領の出発が遅れ、到着が2時間半
程度遅れそうだという。

午後の早い時間に到着するはずだ
ったが、夕方にずれ込みそう。午
後6時15分からのローカルニュース
のオンエアが追い込みになるのを覚
悟しなければならぬ。胃が痛い。

盆と正月がいつぱんに：

警備も厳戒態勢となった。

マイクを向けた湯本温泉の住民
は、警察官のあまりの多さに「盆と
正月がいつぱんに来たようだ」と驚
いた。

大谷山荘の近くにカメラを構えた
系列局は、中継機材の雨よけ用に張
っていたテントの撤去を求められた。

大統領一行の車列を撮影するため
国道の歩道で三脚を立てて準備して
いたカメラクルーも、その場所から
排除された。やむなく国道沿いのコ
ンビニエンスストアに頼み込み、敷
地内から撮影することになった。

32都道府県警からの派遣部隊を含
め、総勢約4100人。山口県では
過去最大の警備態勢だ。

そのあたりも受けた。

警察や外務省が早くから湯本温泉
のホテル・旅館に予約を入れていた

ため、取材に入る系列各局の宿泊場
所を確保するのに苦労した。気づい
た時には首脳会談前後は軒並み満室
状態だった。電話をかけまくって
「万が一キャンセルが出たら連絡い
ただけですしょうか」と泣きついた。

遅刻に振り回されて

一方、プーチン大統領の「遅刻」
が結果的に幸運を招いたこともあつ
た。夕方にかけて天候が一時的に回
復し、取材ヘリが飛べるめどが立っ
たのである。

結局、大統領が山口宇部空港に到
着したのは午後4時50分。タラップ
の下に赤いじゅうたんが敷かれ、つ
いに大統領が姿を現した。わずかに
笑みを見せたが、表情は硬かった。

大谷山荘前では地元の小中学生も
大統領を迎える予定だったが、到
着が午後6時すぎにずれ込んだた
め、急ぎやめとなった。

大統領に付き添うように山口には
寒波が到来し、翌日は各地で初雪を
観測した。「教科書に残るような結
果になれば」と期待された長門市で
の首脳会談は、終始プーチン大統領
に振り回されたように思えた。

もりした・あつし▼1995年入社
本
社報道部 周南支局 岩国支局勤務を経
て2010年から報道部デスク

横浜いじめ問題

川南 有希(共同通信社)

黒塗り資料と

伝えたい思いのはざまで

「しんさいでいっぱい死んだから
つらいけどぼくはいきるときめた」

2011年8月に東京電力福島第一
原発事故の影響で横浜市に転校
し、いじめを受けてきた生徒の母親
が、初めて接触した日に見せてくれ
た男子生徒の手記だ。

被害者、加害者の構図で語られる
いじめ問題で、なんとか中立性を保
った取材を心がけていたが、あふれ
る涙は止められなかった。震災で傷
ついた小さな心を、さらに追い詰め
たものは何か。彼の生きる決意を無
駄にしないように、この問題を追及
しようとした日だった。

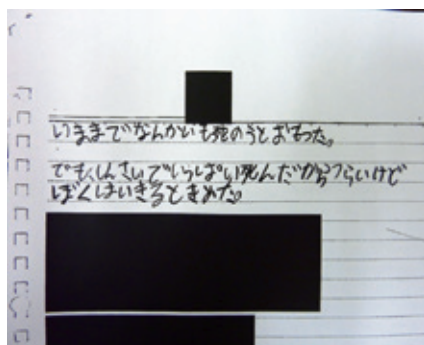
昨年初め、横浜市内で震災避難の小
学生がいじめを受けた事案があると
聞き関係者を回ると、男子生徒が
「賠償金があるだろ」と言われて現
金を要求されたことや、学校が適切
な対応を取ってこなかったことを知
った。なんとしても問題提起したい
と思い、点と点をつないでいく作業
で男子生徒にたどり着いたが、そこ

で迷いが生じた。

自分の問題意識だけで先んじて報
道することが、震災避難を明らかに
したくないと思っている男子生徒や
家族を傷つけてしまうのではないだ
ろうか。それでも報道の必要性を感
じ、何度も書き直して「納得した上
で取材に応じてほしい」と記した手
紙を代理人に送った。当事者取材は、
そこから始まった。

「子どもを守る」と言いつつ 「組織を守る」?

関係者に取材を進める中で繰り返し
聞かされたのが「子どもの生活と
個人情報に影響する」だった。期待は
していなかったが、情報公開請求で
返ってきた資料は真っ黒なものばか
り。繰り返し取材を申し込んだ教育
委員会側は「立ち直ろうとしている
男子生徒の生活の妨げになる」との
回答だった。問題を報道してからも、
市教委は事実公表をせず「子どもの
成長を考慮する」との姿勢を貫いた。



男子生徒が2015年7月に書いた手記(筆者撮影)

情報が出ることでいじめられた側
はもちろん、いじめた側の個人情報も
露呈してしまう懸念は理解できた。
当事者の発言が報道された場合、影
響は大きく、特に子どもには大人以
上に未来の選択肢に支障が出ると考
えるからだ。そのため大人の配慮が
必要になるのは納得できるし、私も
子どもたちへの取材は慎重になった。
しかし、今回の市教委はどこまで
を公表することが自浄作用につなが
るのかといった議論を重ねた様子は
なく、結果的に「子どもを守る」とい
う言葉を自分たちの組織を守る理由
にすり替えているような気がした。
一連の報道で後悔がある。情報を
得たのはほとんど大人から。男子生
徒は手記を公表したり、保護者を通
じてメッセージを送ったりしてくれ
た。しかしそれでも、私はもつと子

ども目線で物事を捉えて伝える努力
をすべきだったのではないのか。そ
うでなければ、今回の問題は大人の
理屈だけで議論が終わってしまう。
震災で避難してきた子どももやいじめ
を受けている子どもたちの声を、さ
らに聞くことが今後の課題だ。

相次ぐいじめ発覚 問題提起はできたが

報道後、教育現場に訴えてもむげ
にされてきた本人や家族が、インタ
ーネット上にあふれた温かいコメン
トに励まされ、「自分たちは悪くな
かった」と思えるようになったこと
を知った。当事者たちを傷つけるこ
とはないのかと悩み続けながら報道
してきたが、仕事の意味をやつと感
じられた瞬間だった。

各地で震災避難の子どもへのいじ
めが発覚している。今回の問題をきつ
かけに各教育委員会が調査に乗り出
したり、声を上げる人たちが始ま
った。報道が問題提起になったことは
歓迎したいが、事実の掘り起こしだ
けに終わらせず、男子生徒が学校に
戻るまで追及したい。手記を読ん
で決意した思いは今も変わらない。

かわみなみ・ゆき▼2008年入社 福
岡支社 校閲部などを経て 14年から横
浜市政担当

新・列島報告⑥ 岐阜県飛騨市

映画館のないまち 「君の名は。」聖地巡礼に沸く

浜崎 陽介
(中日新聞社)



館者数の前年比から推計すると約3万人。4カ月足らずで人口以上のファンが来たことになる。

とにかく若者が多い。金曜日に全員が有給を取ってきたという20代の社会人6人組や、市の宿直が朝、市庁舎の屋根の下で寝ていた若者3人を見つけてびっくりしたというエピソードも。感想を聞くと共通して言うのは「映画の世界に入ったみたい」。皆、巡礼を楽しんでいる様子だ。

住民からは驚きを持って迎えられた。最初は昭和期の同名ドラマが再び流行していると勘違いしていた年配者もいた。筆者自身、驚きつつも、「聖地」の反応や取り組みを丁寧な記事で紹介することを心掛けた。

■SNSで広がった巡礼ブーム

今回の特徴に、SNSで作品や巡礼の人气が広がったことがある。たとえば市図書館は、ツイッターに館内で撮影する際の注意事項を書きつつ、「SNSに写真を投稿する際は『飛騨市図書館きたよ』とぜひとも記載してください」とのPRも添えるユーモアたっぷりの投稿をし、瞬く間に1万件がリツイートされた。

地元映画館がないのも話題になった。最も近い富山市の映画館までは車で1時間半かかる。「飛騨の人

に作品を見せてあげてほしい」とのファンの声や、全国的な報道が後押しになり、異例といえる興行中での市民向け上映会が実現した。

市の対応も早かった。観光課職員が試写会に向き、公開前からポスターを作ったり、作中と同じ場所にキャラクターのパネルを置いたりと準備。若手が「今が頑張り時ですから」と夜遅くまで奮闘し、その後もさまざまな取り組みを実施した。

飲食店や老舗旅館が映画の半券持参でサービスをするなど民間も工夫した。酒造会社が売り出した映画がモチーフの「聖地の酒」は注文が殺到している。こうした試みが巡礼ブームにさらに火を付けたのだろう。

■知名度をどう生かすか

当分は巡礼の波が続くそう。週末は変わらずにぎわっており、台湾やタイ、中国など海外からの来訪も増えている。市は流行を持続させようと12月補正予算に関連事業経費を計上。隣の高山市の「氷菓」をはじめ県内はアニメの舞台が多くあり、連携を模索する動きも期待される。

しかし、いつまでも同水準の巡礼ブームは続かないはず。飛騨市は少子高齢化が進み、国の人口推計で2040年に1万6000人を切る、



多くのファンでにぎわう飛騨市で開かれた「君の名は。」パネル展(2016年9月16日/中日新聞社提供)

いわゆる「消滅可能性都市」。主要産業に乏しく、作品のヒットが根本的な解決につながるわけではない。それでも好機には違いない。得た知名度をどのように生かすか。これから真価が問われると思っている。

実は、12月に同市の古川祭がユネスコ無形文化遺産に登録されたほか、東大の梶田隆章教授がノーベル賞を受賞した「スーパーカミオカンデ」をはじめ宇宙観測施設群も同市神岡町にあり、ポテンシャルは高い。人口が減っても「面白いまち」「一人一人が豊かなまち」のような先進例となり得るのか。広い視点で、ブームのその先を追っていきたい。

はまさき・ようすけ ▼2013年入社
小松支局を経て16年8月から飛騨通信部



被災地通信⑤ 福島県いわき市

震災の記憶よぎったM7.4 教訓と慣れから見えたもの

渡辺 哲也 (福島民友新聞社)

2016年11月22日午前5時59分、福島県沖を震源とするマグニチュード(M)7.4の地震が発生した。大きな揺れに目が覚め、布団から跳び起きた瞬間、5年8ヵ月前あの悪夢が脳裏をよぎった。

部屋に散乱する本の隙間からリモコンを取り、テレビを付けると、いわき市は震度5弱を観測し、沿岸部には津波警報が出されていた。時を同じくして、相次いで携帯電話が鳴る。支社の報道部員もまた動き出し、現場に向かっていった。

「絶対に海には行くなよ」。真っ先に口から出た言葉だ。東日本大震災

の際、大津波で同僚記者を失った思いは社内で誰もが共有していた。何よりも優先すべきは命だ。いわき支社の記者5人中、3人は震災、原発事故後に入社した社員で、使命感のあまり、津波の浸水が予想される地域に向かうことが心配だった。

支社の記者、沿岸部の支局長はそれぞれの安全を確保しながら、地震発生から数十分後には沿岸部の住民が避難を始めた高台の避難所、学校などで取材を開始した。震災、原発事故直後、何よりも取材の中で大切にしたことは、避難を余儀なくされた住民の姿と声を追うことだ。いわき支社に配属となつてから2ヵ月弱の小針陽介記者が市災害対策本部で情報収集に奔走するなど、記者たちは各持ち場で奮闘し、不安を募らせる人々の思いに迫った。

非常時と平常時が混在 住民の判断にブレも

避難する住民がいる一方で、通勤、通学など日常通りの生活が続ける住民の姿が印象に残った。非常時と平常時が混在した。震災、原発事故という未曾有の災害を経験したゆえの「慣れ」だろうか。日常生活の全てが一瞬でストップした震災時とは異なるが、津波警報が発令中であり、

余震も続く中で、企業や学校、そして、個人の判断に躊躇やブレが見られた。

今回の地震では、いわき市の各地の幹線道路で避難者らの車による交通渋滞が発生し、課題を浮き彫りにした。震災時に車で避難しようとしたが道路損壊などで立ち往生し、津波の犠牲になった人が数多くいた。

車による避難も前提？ 求められる柔軟な対策

地域防災計画では、避難は「原則徒歩」と定めているが、今回も多くの市民が車での避難を選択した形だ。津波による車の被害は保険が適用されないため、震災で一度車を流された沿岸の住民の心理に、「財産を守ろう」とする意識が強く働いたことも考えられる。



津波警報を受け、高台に避難する住民ら(いわき市久之浜町/2016年11月22日/福島民友新聞社提供)

避難する人の健康状態や天候、時間帯などで避難の選択肢は当然変わる。震災時に駐車場まで津波が押し寄せた沿岸部の老人ホームでは、地震発生後、職員が入所者88人を施設のマイクロバスや職員の車に分乗させ、避難所に指定されている近くの中学校まで搬送した。震災後に策定した施設の避難マニュアルに基づく行動で、大半の職員は自宅から車で駆け付けた。海岸から300メートルの距離にある同施設にとって、現状では車以外に避難のすべはなかった。

12月市議会的一般質問で、市議から「車は移動に便利というだけでなく、避難先のプライベートルームであり、ラジオやカーナビは情報源でもある。車による避難を制限するより、車による避難を前提として対策を講じるべきではないか」などの指摘があった。市は「原則徒歩を変えることは難しい」とするが、今回の交通渋滞発生を踏まえ、車による避難訓練の検討に入った。

地域の特性や住民生活の実態に適応した、地区単位により柔軟性のある避難計画の策定、災害に備えた住民主体の議論が求められる。

わたなべ・てつや▼1999年入社
浪江支局長 報道部遊軍キャップなどを経て
2015年3月からいわき支社報道部長

私が会った
あの人

夜回りは記者の道場

座談の名手だった松野頼三さん

井芹 浩文（共同通信出身）

火災で焼失したホテル・ニュージャパンには、ニューヨークの最高級ホテルのウォルドフ・アストリアと同様に、アパートメント部分があった。松野頼三さんと最初に会ったのが、その部屋だった。

1982年2月のニュージャパン火災後、事務所は金丸信さんもいたパレロワイヤル永田町に移った。それに白金台の自宅。この3カ所に足しげく通った。

松野さんは、とにかく帰宅が遅い。というより帰宅は決まって午後11時15分ごろ。ある家を出るのが11時きっかりだったということ、は、つい最近、関係者から聞き、やっと合点がいった。

帰宅が遅いので、他の政治家のところを夜回りした後に、松野邸を訪れるのを日課とする記者も多かった。私が担当したのは、三木政権時代の政調会長から総務会長

という時で、政局のキーマンだったから、その時刻になると多くの記者が参集した。

待つ時は玄関脇の部屋や麻雀部屋だったりしたが、主が帰って来ると大きな暖炉のある居間に通された。松野さんは薪もくべるのだが、たくさん来ているダイレクトメールを封も切らずに次々と火に投じていたのが、なぜか記憶に残る。

そして午前2時ごろまで延々と座談が続く。松野さんの話の特徴は、2度同じことを繰り返すという点だ。だから聞き逃しても心配はいらない。またリフレインしてくれる。特に重要なこと、得意なこと、聞き留めてほしいことは2度しゃべる。記者が注文をつけると、それを取り入れ、少しバリエーションを加える。こうして話ができればと、後日、公衆の前で話す。それでこなれた話になる。

だから松野さんの話はよく新聞に載った。最もマスコミで取り上げられた（今も取り上げられる）のは田中角栄氏だろうが、肉声で最もマスコミに取り上げられたのは松野さんではなからうか。

そこで朝日新聞の羽原清雅さんが中心になって、すでに出版された本や新聞、週刊誌での発言録をまとめて、1周忌に出版したのが「政界六〇年 松野頼三」（文藝春秋刊）だ。

私は三木政権時代を扱った第五章「政権中枢」と、細川政権から小泉政権までの第八章「政界指南役」を担当した。

羽原さんは編集後記で「この政治家は、新聞記者たちに、日夜、事務所でも自宅でもよく話してくれました」そのユニークな解析や判断は私



「戦後政治史の生き証人」ともいわれた松野頼三さん（共同通信社提供）

たち記者にとって、少しずつ蓄積され、財産になってきた」と書かれていたが、その通りだ。

記者会見場が政治家と記者の戦場ならば、夜回りなど記者懇談の場は双方にとって道場のごときものではなからうか。優れた座談を聞いて記者は育つ。そこには常に緊張感があり、切磋琢磨があるものだ。松野道場はそんなところだった。

政界の寝業師、策士、はぐれガラス、ご意見番、首相の指南役いろいろな呼ばれ方をした松野さんだが、逆に三木武夫氏を「かめばかむほど味の出る鳴門ワカメ」と評し、小沢一郎氏をいつか爆発する「ガソリンのような男」と呼んだ。現代政治を「目のない碁盤の上で碁を打っている」と喝破した。地元紙・熊本日日新聞の回顧録で「政界の語り部になりたい」と語ったが、まさに座談の名手だった。

（いせり・ひろふみ 元論説委員長）

次号は長崎和夫さん（毎日新聞出身）にバトンが渡ります。

マイBOOK マイPR

■激論 マイナス金利政策（日本経済研究センター編）

斎藤 史郎（日本経済新聞出身）

日本を代表する金融の専門家15人が功罪を語る 黒田東彦総裁の下で日銀が異次元緩和策を打ち出してから間もなく4年が経過する。一連の政策の中で最も人々に衝撃を与えたのがマイナス金利政策である。量的緩和策が先行し、長期金利コントロール政策が続いた。日銀は未踏の領域への実験と語り、批判的なエコノミストは危険な賭けであると分析する。論理の裏付け、技術的限界、財政破綻と隣り合わせの出口問題…。日銀幹部、OB、日本を代表する経済学者、エコノミストが徹底的に議論した記録である。



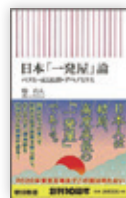
日本経済新聞出版社 2700円

■日本「一発屋」論 バブル・成長信仰・アベノミクス

原 真人（朝日新聞社編集委員）

日本人はバブル志向の「一発屋」か 日本銀行による異常な規模の金融緩和が続いています。これは「バブル一発」あれば景気は良くなる、というギャンブル的発想の政策です。す

でに失敗は明らかですが、今も止められず、出口もまったく見通せていません。アベノミクスがこれによって立つ以上、引くに引けないのです。日本には知恵も技術も底力もあります。それらを生かす政策への転換こそ必要です。「一発屋」発想のままでは、日本経済は破綻するまで突き進まざるを得なくなりそうです。まるで、あの戦争のように。



朝日新聞出版 821円

■EUはどうなるか Brexitの衝撃

村上 直久（時事通信出身）

等身大のEUを描く 英国民投票で欧州連合（EU）離脱が決まったことは、世界最大の地域共同体EUを混乱と先の見えない不安に満ちた状況に陥れた。

本書は、英国が1973年にEUの前身、欧州共同体（EC）加盟以来の両者のぎくしゃくした関係をたどったうえで、過去数年間、ウクライナを巡るロシアとの対立やユーロ圏ソリン債務危機、中東などからの難民の大量流入、イスラム過激派の連続テロなどに直面するEUのリアリティーを「等身大」に描こうと試みた。



平凡社 842円

■戦後史で読む憲法判例

山田 隆司（読売新聞出身）

重要裁判の時代背景に迫る 憲法判例を理解するうえで、事件の舞台となった時代状況を知っていた方が格段に面白い。沖縄返還を巡る密約が問題になった西山事件、後に駐日米大使と最高裁長官の密談が明らかに

なった砂川事件など17件の判例・事件を解説した。今、大学で憲法を学ぶ学生でも、その時代の「空気」をできるだけ吸い込み、当時の感覚に近づいて事件に迫れるよう、戦後史の中に憲法判例を位置づけた教科書らしくない憲法の本である。



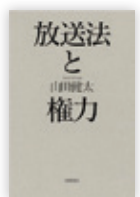
日本評論社 2376円

■見張塔からずっと 政権とメディアの8年／放送法と権力

山田 健太（専修大学教授）

言論の自由の瀬戸際 過去と現在の事象がいかにつながっているか、法令や判例が社会の空気をどのように変えていったか、『見張塔』では102の具体的な事例から、年表とともに検証しています。そして、公権力との軋轢を生みやすいテレビが、こうした自由の縮減の矢面に立たされている状況を、理論と実態の両面から描いたのが『放送法』です。

Post-Truth（嘘がまかり通る）政治が、今の世界状況を表す言葉です。しかし日本では、ネット上の言説がリアル社会をかき乱し、既存マスメディアが既得権益の擁護者と称される状況は、すでに10年近く前から始まっています。それがじわじわと、ジャーナリズムの足腰を弱め、社会全体の息苦しさを醸し出してきているという、危機的状況が両書の共通テーマです。



田畑書店 各2484円



■会議報告

●第469回企画委員会

（12・15 会見場）

2017年予想アンケートを作成した。

出席 西村委員長、坪井、安井、服部、橋本、脇、宮田、杉田、軽部、石川、山本、瀬口、傍示、島田、竹田、川戸、播磨、川村、和田、ワグナー、橋場の各委員。

●第472回会員資格委員会（書面）

2017年1月1日付入退会を審議し、理事会に答申した。

奥野誠亮氏の「得意満面」



お別れの会 (写真提供=時事通信社)

元法相の奥野誠亮氏(2016年11月16日死去、享年103)の「お別れの会」(12月12日)で参列者を迎えたのは、2015年11月にクラブで会見したときの奥野氏の写真だった。

当時102歳の「最高齢クラブゲスト」は戦後70年シリーズ会見で、戦後処理、靖国問題、自主憲法制定などについて熱弁をふるった。喪主で長男の信亮衆院議員は遺影を前に「このときの講演は『さすが先生らしく論旨明快だった』と多くの方々から称賛いただき、その得意満面の1枚を祭壇に飾りました」とあいさつしたという。「奥野節」はYouTubeの日本記者クラブチャンネルで聞くことができる。

(<https://www.youtube.com/watch?v=YXsmZ9ZhGtK>)

Gallery 9th floor 報道写真展 1/23(月)~2/4(土)

クラリスとカルロ〜マニラの墓地で生まれ育った子どもたち フォトジャーナリスト・篠田有史



墓地で暮らす。日本では考えにくい、フィリピン・マニラ首都圏にある公営墓地では約200家族、1000人が生活している。スラムが火事になって行き場を失った住民や、都心の再開発であら家を追い出された人たちが、次々と流れ着く。

フォトジャーナリスト・篠田有史さんが子ども4人を持つシングルマザーの家族と出会ったのは2009年3月。子どものうち2人は墓地から学校へ通い、下の子ども2人はここで生まれた。それからほぼ毎年、墓地の家族を訪ねた。7年にわたる一家の記録を33点の写真で報告する。

情報発信

■よさこいパーティー 共催：高知新聞社・高知放送
毎年12月に新聞・放送・通信各社の関係者を招き、高知の郷土料理と特産品を楽しむ会を開いている。宮田速雄高知新聞社長、佐竹慶生高知放送社長ら両社幹部が出席者と懇談した。約700人が参加した。(2016.12.9 10階ホール)

■日本海スタイルシンポジウム

「日本海スタイル」は日本海沿岸地域の6新聞社(東奥日報社、秋田魁新報社、新潟日報社、福井新聞社、神戸新聞社、山陰中央新報社)が共同運営するウェブサイト。移住促進、UIターン情報提供などを目的としている。シンポジウム「日本海地域が輝く、日本海地域で輝く」が開かれ、石破茂前地方創生担当相の基調講演とパネルディスカッションが行われた。

同サイトは<http://nihonkai-style.com/> (12.13 10階ホール)

囲碁同好会「大軒杯」友田さんが2連覇

年末恒例の囲碁同好会「大軒杯」が12月17日(土)に開催され、友田錫さん(個人D・産経新聞出身)が、一昨年に続いて2度目の優勝を果たしました。準優勝は山路憲夫さん、参加者は18人でした。

◎予想外はトランプ並み?

2016年は予想外の出来事に満ちていた。アメリカ大統領選でのトランプの勝利はその最たるものだが、東京・内幸町の一隅で起きた私の大軒杯連覇も、大番狂わせというその一点で、トランプの勝利に通じるものがある。

「碁敵は憎さも憎し懐かしし」と古川柳にある。こんどの予想外の連覇で憎まれる度合いは一段と増すに違いないが、願わくば、後段の「懐かしし」もお忘れなく。(友田錫)



寄贈書

権力に迫る「調査報道」

原発事故、パナマ文書、日米安保をどう報じたか

(高田昌幸、大西祐資、松島佳子 共著)

昨年は「調査報道」という語句が(少しだけ)脚光を浴びた。言うまでもなく、ICIJ(国際調査報道ジャーナリスト連合)によるパナマ文書報道が発端である。

ただ、日本では既存メディアの取材力低下がさらに目立ち、調査報道も一時の勢いを失っている。本書はそうした状況に歯止めをかけ、取材力の向上と調査報道取材のノウハウ共有を目的とした。2011年に旬報社から発刊した『権力VS.調査報道』の続編であり、今回も調査報道を実践しているジャーナリストに対し、志を同じくする記者がインタビューする形を取った。

語るのは秦融(中日新聞)、木村靖(同)、石井暁(共同通信)、日野行介(毎日新聞)、日下部聡(同)、萩原豊(TBS)、アレッシア・チェラントラ(イタリア人ジャーナリスト)、立岩陽一郎(NHK)の8氏。聞き手(著者)の3人はいずれも地方紙の記者である。

高田 昌幸(高知新聞社報道部副部長・部長待遇)

■21世紀山形県民会議 共催：山形新聞社・山形放送

山形県の課題について語り合う会議を、毎年年末に東京で開催している。今回のテーマは「活性化の礎 急げインフラ整備」。吉村美栄子知事、県関係国会議員、各界代表らがフル規格新幹線の整備や高速道路の建設促進などについて意見を交わし、高速交通網の整備が地方創生の基本との認識で一致した。(12.17 10階ホール)

レストラン*価格は全て税込みです

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2766・2731

和食 陸月懷石(2/3まで)

先付：海老手綱巻き お椀：蛤、うど、菜の花
など 造り：三点盛り 焼物：すずき塩焼き 煮
物：信田巻、里芋など 揚げ物：海老真丈アーモンド
揚げ 食事：鰻そば 水菓子：季節の果物 グ
ラス冷酒付き(5,400円) (板長：大井由光)

洋食 おすすめコース(2/28まで)

ズワイガニのカクテル仕立て、フカヒレ入りコ
ンソメスープ、シチュー・ド・ビーフ フライド
ライス添え、グリーンサラダ、小菓子と柚子シャ
ーベットの盛り合わせ、パン、コーヒー付き(3,780
円)。ランチ、ディナー(土曜日はランチのみ9
階レストラン)ともにご利用いただけます。

(シェフ：黒須修一)

ひれ酒でふぐコースをお楽しみください

2月3日(金)まで提供しています。刺身に唐
揚げ、鍋と締め雑炊でふぐを堪能してくださ
い。寒い冬にはこれが一番? 「ひれ酒」の用意
もあります。お一人5,940円で、お二人からお受
けします。必ずご予約をお願いします(03-3503-
2723)。

ウェブサイト もうすぐリニューアルします

見やすく使いやすいウェブサイトと業務効率
化をめざし、スマートフォン対応も含めたサイ
トのリニューアル作業を進めています。

入り口となるトップページは、クラブカラー
の緑と黄色をベースとしたシンプルなデザイン
に変更します。会見は「これまでの記者会見」と
「これからの記者会見」に分け、過去の会見参照
と、予定の確認・出席申し込みが簡単になります。

1月中旬にはリニューアル・オープンします。
詳しくは次号でご案内します。



HP更新情報 <http://www.jnpc.or.jp/>

会見詳録 会見の全文文字記録版

- 横田耕一・九州大学名誉教授「『生前退位』問題
は、天皇の意思で政治が動いており憲法上問題
あり」(2016.11.16)
- アウンサンスーチー・ミャンマー国家顧問兼外相
(2016.11.4) 日本語・英語

今後の行事予定(12/26現在)

17㊤	14:00～15:30 10階ホール 研究会「2017年経済見通し」② 渡辺博史・国際通貨研究所理事長
25㊤	15:00～16:30 10階ホール 研究会「中国の対外経済戦略」 郭四志・帝京大学教授

クラブの電話 ダイヤルイン

- 和食レストラン(9階) ☎3503-2723
- 洋食レストラン(10階) ☎3503-2766
- 貸室予約・宴会打ち合わせ ☎3503-2724
- 受付 ☎3503-2721
- 会員事務 ☎3503-2727
- 経 理 ☎3503-2728
- クラブ行事への申し込み ☎3503-2722
- 会見申し込みアドレス kaiken@jnpc.or.jp

会員現況

- 法人会員：134社 ●基本会員：746人 ●個人会員：1,284人
 - 法人・個人賛助会員：64社・140人 ●特別賛助会員：100人
 - 名誉・功労会員：12人 ●学生会員：136人
- 計：198社・2,418人

新しいフロアマネジャーの館下英樹です

=自己紹介=



12月からフロアマネ
ジャーとして事務局職員に
加わった館下英樹(たてし
た・ひでき)です。“館”の
字は体育館ではなく、俳
優・館ひろしさんの“館”で
す。出身は千葉ですが、両親が岩手の生まれな
ので少し珍しい字なのかもしれません。

好きな言葉は「チャレンジ」。新しい仕事に挑
戦してみようと日本記者クラブの職員に応募し
ました。ホテル勤務の経験があり、ベルボーイ
やフロントを担当しました。クラブ受付で、そ
の経験を生かせればと思います。

25歳、まだまだ分からないことだらけですが、
会員の皆さまからご指導いただきたいと思って
おります。どうぞよろしくお願いいたします。

新年会員懇親会は1月16日午後6時から

すでにご案内のとおり、新年互礼会員懇親会
を1月16日(月)午後6時から10階ホールで開催
します。法人賛助会員各社の社長や、特別賛助
会員である大使館の大使、昨年クラブで会見し
たゲストなども招きます。

当日は「2016年予想アンケート」の結果発表が
行われます。さて、最高得点者は? 「トランプ
大統領誕生」を予想した会員は? 発表をお楽
しみに。

2017年の予想も投票できます。参加希望の方
は事務局(03-3503-2722)までご連絡ください。

会合参加は事前にお申し込みください

会見場の設営や資料の準備は申し込み人数を
参考にしていますが、最近、用意した席や資料
が足りなくなる会合が増えていきます。前日まで
にお申し込みいただくようお願いいたします。
下記のほかホームページからも登録できます。
メール: kaiken@jnpc.or.jp TEL: 03(3503)2722

酒井元理事長が死去

酒井新二・元クラブ理事長(元共同通信社長)
が2016年12月18日に死去されました(享年96)。
1978年5月から81年5月まで理事長をお務めい
ただきました。酒井家と共同通信社の合同追悼
ミサは1月16日(月)午前9時30分から、千代田
区麹町の聖イグナチオ教会で行われます。

会報委員会

- 委員長＝飯塚 浩彦
- 委員＝稲沢 裕子 井上 洋一 大辻 一晃
- 大寺 廣幸 鈴木 仁 長崎 和夫
- 藤井 良広 藤澤 秀敏 吉澤 正一
- 渡辺 大祐

(事務局：長谷川和子 村田 茜)

☎03-3503-2752 FAX 03-3503-7271



撮影…
 潟沼^{かたぬま}
 義樹^{よしき}
 (東京新聞写真部)

2016年東京写真記者協会・一般ニュース部門(国内)奨励賞受賞「沖縄 誰が守る」
 米軍北部訓練場に入る米軍車両(後方)の前に座り込む人たちと対峙する機動隊員ら

2016年10月26日、沖縄県東村高江

どちらにカメラを据えるのか

米軍車両を背負って立ち並ぶ、制服姿の警察官たちの壁。さまざまな帽子やシャツ姿で、座り込む反対派住民たちの無防備な後ろ姿と対照的な、その威圧感は、カメラが住民の側に据えられていたからこそ伝わってくる。

沖縄での基地反対運動が大きくなうねりになっていく中で、周囲では、「沖縄に行ってきた」という人が目立っている。だが、併せて聞かえてくるのは、「出かけてみて改めて、自分たちは沖縄について本当に何も知らないことがわかった」という声だ。

たとえば沖縄は、いつ、どのように日本の領土にされたのか。それを知らないとなれば、当然、その前の沖縄固有の文化も歴史も知らない。第二次大戦末期に沖縄が惨烈な戦場となり、多数の住民が犠牲になったことは知っていても、さて、その後の沖縄に何が起き、どのようにして基地の島にされていったのかというと、それは知らない。

日本の米軍基地を一手に引き受けさせられてきたこの島のことを、なぜ私たちは、「知らなかった」のか。それは、私たちの目のカメラが、警官隊の壁の後ろに据えられていたからではなかったか。そうしたカメラの位置が、警官隊からの「土人」暴言まで生み出してしまったのではないのか。

新しい年、私たちは自らのカメラの位置を確かめ直すことを問われている。

(竹信三恵子)